

新型インフルエンザウイルス

河岡 義裕

東京大学 医科学研究所 感染・免疫部門 ウイルス感染分野

インフルエンザは、紀元前にすでにその記載が認められるほど古くから存在する疾病である。前世紀、人類は三度、世界的規模のインフルエンザの流行を経験した。なかでも、スペイン風邪では、世界で2,000万人以上が死亡した。しかし、今世紀に起きた三度のパンデミックによる死亡者数と毎年流行するエピソードによる1958年以降の死亡者数はほぼ同数である。このインフルエンザを制圧するには、ワクチンと抗ウイルス薬があるが、現行の不活化ワクチンは、症状の重篤化は効果的に予防するものの感染そのものの予防は期待できない。一方、抗ウイルス薬としては、ノイラミニダーゼ阻害薬が開発され、インフルエンザ治療の新しい時代を迎えた。新型ウイルスがいつ現れても不思議ではない現状をふまえた上で、インフルエンザに関する最近の知見について考察したい。

Why influenza kills and will kill again

YOSHIHIRO KAWAOKA

Division of Virology, Department of Microbiology and Immunology, Institute of Medical Science University of Tokyo, Japan